

# マンモグラフィ

乳房は脂肪や乳腺など、とても柔らかい組織でできています。その中の細かい組織を写し出すために工夫された専用の機械を使って撮影します。外からさわってもわからないような小さな病変を白い影や石灰砂の影として見つけることができるので、早期乳がんの発見に非常に有効といえます。

## 乳がんについて

日本人女性がかかるガンのトップは乳がんです。女性の22人に1人が乳がんになるといわれており、2004年に乳がんで亡くなった女性は10,524人で、交通事故で亡くなった7,358人を上回っています。(厚生労働省 H.16人口動態統計)

乳がんは20歳過ぎから認め、30歳代から40歳代で急増し、40代後半から50代にかけて発症がピークになります。

乳がんは早期発見ができれば治る病気です。しかし残念ながら日本では乳がんに対する関心や知識が低いため、発見された時にはすでに進行している場合が少なくありません。

乳がん早期発見のために、セルフチェックや検診が大切なのです。

## 『乳がんのリスクが高いとされる人達』

- ・ 40歳以上の人
- ・ 初産年齢が30歳以上の人(出産経験がないひとを含む)
- ・ 閉経年齢が55歳以降の人
- ・ 標準体重より+20%以上太っている人
- ・ 良性乳腺症になったことのある人
- ・ 乳がんになったことがある人
- ・ 家族に乳がんになった人がいる人

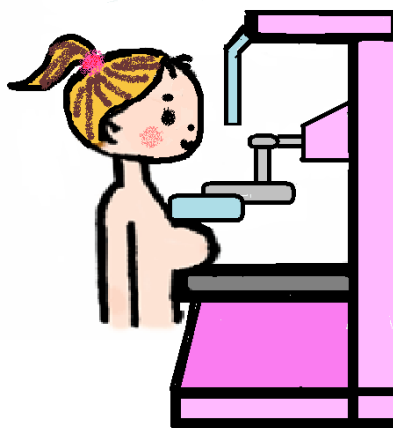
## 実際の撮影の流れについて

撮影室に入室後、着替えをしていただきます。乳房を直接フィルムに乗せて撮影しますので、上半身は裸になってもらい、検査用のガウンを掛けた状態で撮影を行います。

髪の毛の長い方は結んでいただき、眼鏡・時計・アクセサリーは外していただきます。

装置の前に立ち、力を抜いて楽にしておいて頂ければ、技師が位置を合わせていきます。

乳房組織を残さず写真に写し込む為、乳房をできるだけ台の方に引っ張り、その状態で圧迫板というプラスチックの板で圧迫し固定します。個人差はありますが、圧迫により少なからず痛みを伴いますが、鮮明な写真を撮るためにはどうしても必要なことであるとともに、放射線の被ばく量も減らすことにも繋がります。



撮影は、左右2方向ずつ、合計4回行います。  
検査時間は約15分です。

### いつ撮影するのか？

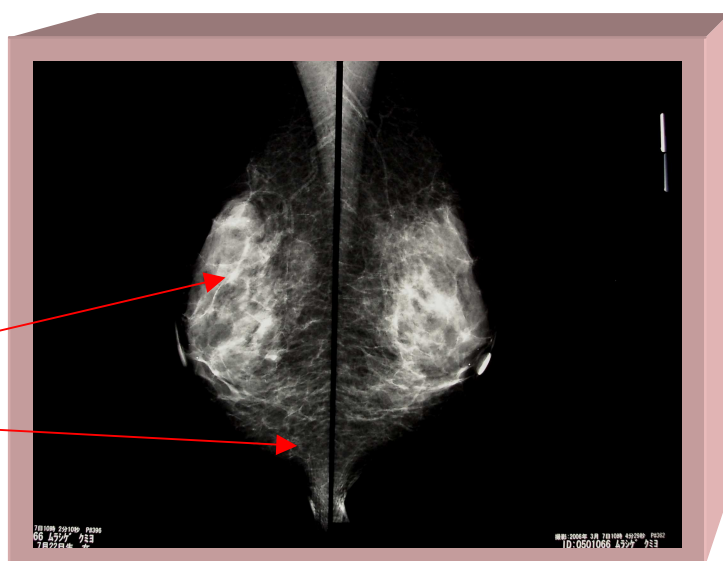
マンモグラフィー検診は視触診と併せて2年に1回、できれば1年に1回受けられることをお勧めします。乳房を強めに圧迫するため、なるべく生理前の乳房が張っている時期は避けたほうがいいと思います。

また、しこりや乳頭からの分泌液など、いつもと違う症状に気が付いた人は、検診の時期を待たずに、早めに受診して下さい。

### どんな写真がとれるのか？

こんな写真が撮れます。

白いところが乳腺  
黒いところが脂肪



## 乳房撮影における放射線被ばく

マンモグラフィーはX線検査なので、放射線被ばくがあります。ですが、1回の検診で乳房が受ける放射線の量は東京からニューヨークへ飛行機で行くときに浴びる自然放射線の量の約半分程度です。つまり、マンモグラフィー撮影に伴う危険性はほとんどないと考えられます。

マンモグラフィー撮影によって早期乳がんが発見できることのメリットの方が被ばくのリスクを心配することより遥かに大きいのです。



## 撮影装置について



当院は、平成18年2月、マンモグラフィーの機器を更新しました。

高画質な写真を提供できるように、日々、品質管理を行っています。

我々の目標といたすところとしては、マンモグラフィー検診制度管理中央委員会に申請し、施設認定を取得したいと思っています。

### マンモグラフィー認定技師

現在、岩国医療センターには、マンモグラフィー認定技師の資格を取得している診療放射線技師が7名います。また、患者様へのストレスを減らすため、マンモグラフィー撮影にはできるかぎり、女性技師が対応するようにしています。

検査の痛みを恐れる気持ちや、他人に胸を見られたり、触られたりすることへの抵抗は大きいとは思いますが、

我々も良質な検査が提供していけるよう日々努力していきますので、是非、積極的かつ気軽な気持ちでマンモグラフィー検診を受けていただきたいと思います。

**マンモグラフィー検診をご希望の方は、  
まず、当院外科外来を受診して下さい。**